

「植栽基盤調査報告書」作成の手引き

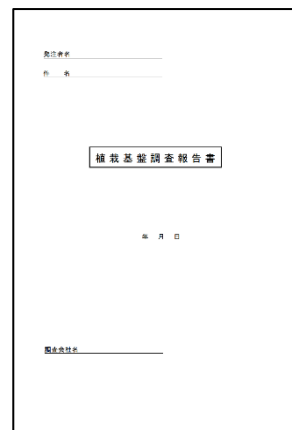
(Ver. 7.2)

一般社団法人 日本造園建設業協会

(240422)

目 次

- I. 本書の使い方
- II. 報告書の解説



I. 本書の使い方

1. 本書は、「植栽基盤調査報告書（ワード版）」（以下「報告書」という）の書き方について解説したものである。
2. 本書は、報告書の原文を黒字、解説を斜字で表記している。
3. 報告書は、植栽基盤調査項目全般を網羅した内容としているが、調査対象地の条件や発注者から要求事項により、調査項目を取捨選択してまとめる。
4. 報告書の記入欄は、必要に応じて拡大・縮小しまとめる。

II. 報告書の解説

1. 調査実施者

調査会社名	
住所	
電話番号	
植栽基盤診断士名	
交付番号	
植栽基盤診断士証	

2. 調査の目的

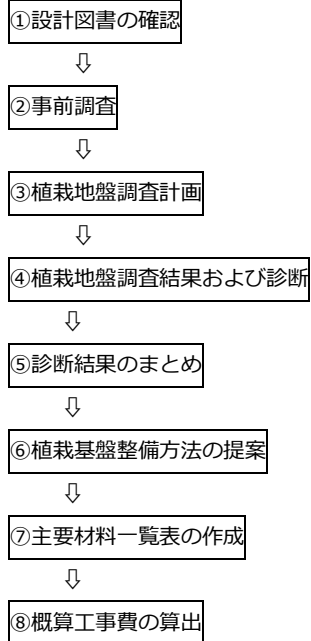
	調査に至る経緯、予想される問題点、 調査によって得られる成果等を明記する。
--	------------------------------------------

3. 調査報告書の概要

対象地	名称		本項は調査結果のまとめ（結論）である。 報告書の流れによっては削除してもよい。
	所在地		
植栽の内容	主な植栽形態		実際に実施した調査項目を記入する。 必要に応じて調査箇所数も記入する。
	植栽面積	㎡	
土壌調査結果の概要	調査期間	年 月 ~ 年 月	調査結果にもとづき、どの場所で、何が 問題なのか、その概要を記入する。
	主な土壌調査項目		
	植栽基盤の問題点		
提案内容 (植栽基盤の整備方法)	改善提案の概要を記入する。		標準積算基準に則って算出する。基準がない場合は、 業者見積り等を参考に、適正な価格にて積算する。
概算工事費	万円		原設計に植栽基盤整備工に関する積算がない場合は、 項目を削除する。
原設計との差額	万円		
備考	その他、特筆すべき事項があれば記入する。		

4. 調査の手順

調査は、以下の手順で実施した。



植栽基盤の定義にもとづき、

「植栽地盤」と「植栽基盤」を使い分けしており、
ここでは「植栽地盤」という用語を用いている。

5. 設計図書の確認

(1) 計画地概要

計画地	名称	
	所在地	
	植栽地の利用形態	
	面積	計画地面積 m ² (うち植栽地は m ²)

(2) 位置図

調査対象地が分かるように、主要な交通機関、路線、主要公共建築物等を記載し、
方位、スケールを明記した位置図を貼り付ける。

必要に応じて行の挿入・削除を行う。

植栽樹種が多い場合には主要な樹種のみ記載する。

(3) 植栽内訳

分類	樹種	形状寸法 (m)			単位	本数	備考 (生育目標樹高)
		H	C	W			
高木							
中木							
低木							
地被類							

■ 植栽計画平面図

(4) 植栽基盤整備に係わる計画概要

原設計における植栽基盤整備に係わる計画の概要は、次のとおりである。

植栽基盤整備項目			整備内容
敷地造成工	基盤の造成	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	設計図書で示された計画の概要を記載する。切土・盛土の別、盛土材の種類と品質や造成方法等。
	発生土の利用	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	発生表土の保全に関する事項。土壌の種類や品質、土量などについて記入する。
整地工	表面排水対策	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	表面の排水勾配に関する事項。滞水が懸念される場所はないかなどについて記入する。
透水層工	暗渠排水対策	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	暗渠排水工の有無と仕様について記入する。
土層改良工	粗起し、耕耘等	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	粗起し(深耕)や耕耘の有無と仕様について記入する。
	土壌改良剤の施用	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	土壌改良剤使用の有無と仕様について記入する。
土性改良工	pH 矯正や施肥等	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	pH 矯正や施肥などが設計図書で示されていれば記入する。
その他	客土の有無	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	客土があれば、客土材の種類と使用量について記入する。
	植栽樹の有無と形状	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	植栽樹があれば、形状寸法と植栽基盤整備に関する仕様を記入する。 その他、特記事項があれば行を追加して記入する。

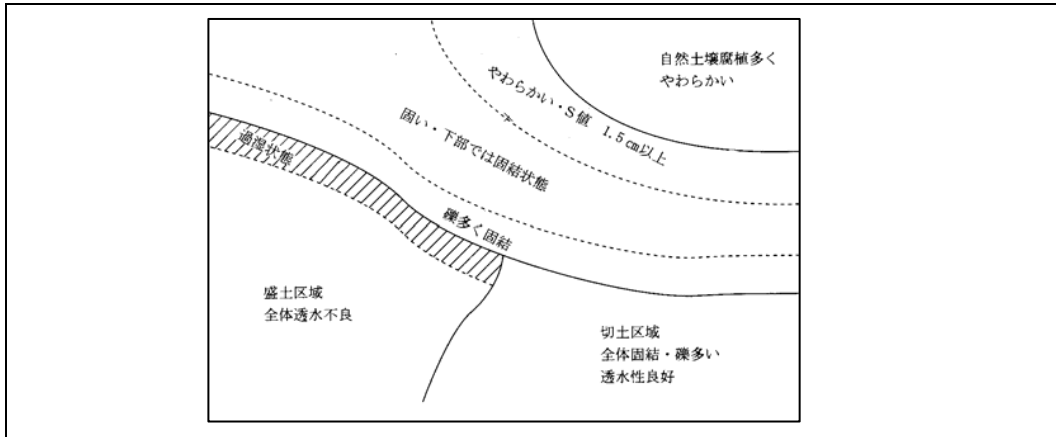
6. 事前調査

(1) 地形・地質条件の確認

地形	地形区分	ローム台地、シラス台地、砂礫台地や扇状地等、土壌の性質が分かるように記入する。なお、専門的に記入する必要がある場合は、地形区分図にもとづき記入する(扇状地、ローム台地、丘陵地、新第三記、古生代等)。
	傾斜の有無	平坦地・傾斜地の別、法面勾配・方位等について記入する。
	地表面の滞水状況	雨水等による水溜りがないかどうか確認する。
地質	地盤の状況	盛土または切土の別、地盤の勾配や地表面の耐水の状況などを記入する。
	礫・コンクリート塊等の有無	礫やコンクリート塊等の混入状況を記入する。
	土壌の種類	火山灰土壌、マサ土、山砂等、土壌の種類を記入する。 なお、造成盛土で種類が特定できない場合は造成土と記入する。
	雑草の生育状況	雑草の種類、草丈や繁茂状況などについて記入する。
特記事項	その他、地形や地質に関し、特記すべき事項があれば記入する。	

■ 地盤調査図

植栽対象地について、地盤調査図を作成し添付する。

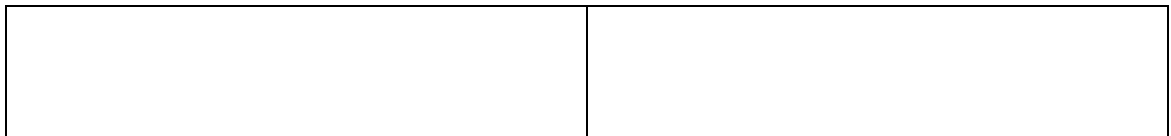


(2) 周辺地域の生育状態の確認

植栽樹木の生育状況、および	計画地の植栽樹木の生育状況	既存の植栽樹木がある場合は、その生育状況の概要を記入する。 植栽した樹木がない場合は、周辺の植生のみを記入する。
周辺植生	周辺の植生	
特記事項		植栽基盤整備に関して特記すべき事項があれば記入する。

■ 現況写真

対象地の全景、周辺状況写真や特徴となる地点を撮る。



7. 植栽地盤調査計画

(1) 植栽基盤としての問題点と調査項目

事前調査の結果にもとづき、植栽基盤として想定される問題点とその実態を明らかにするための調査項目は、次のとおりである。

問題点の分類	予想される土壌の問題点	対応する調査項目
植栽基盤の範囲	設計図書で有効土層の整備面積と深さが示されていて、それに対する問題点の有無と問題がある場合は記入する。 ・設計図書で目標の有効土層厚さ等示されていない場合は、植栽計画にもとづき問題点を整理する。	
物理的条件	・土壌断面調査 ・透水性調査 ・土壌硬度調査等	・pH ・EC 等
化学的条件		
その他		
		事前調査結果にもとづき問題点を整理する。

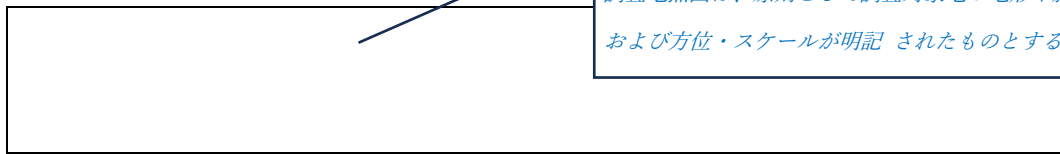
(2) 植栽地盤調査実施計画

植栽地盤調査の調査項目、調査方法および調査数量は、次のとおりである。

調査項目	調査の方法	調査頻度	数量	備考

必要に応じて、行の挿入・削除を行う。

■ 調査地点図



調査地点図は、原則として調査対象地の地形や施設物等の状況および方位・スケールが明記されたものとする（測量図等）

8. 植栽地盤調査結果および診断

A-4 用紙 横使いでもよい。

(1) - ① 土壌断面調査（掘削断面調査）

地点番号	A-1	調査地点	公園 南側		調査日		調査者			
天候	晴	前日の天候	曇		○年	○月	○日			
	深さ (cm)	層位	土性	構造	土色	水分状況	石礫	根系	硬度 (mm)	その他
	0	I	埴壌土 (CL)	塊状	黒褐色 (5YR 2/2)	半湿	多い	多い (表層5cm)	23,24,23	一部にレキ土
	10-20				土丹 褐灰色 (5YR 6/1)					
	20-30	II	レキ土 (G)	なし	黒褐色 (5YR 2/2)	半湿	極めて多い	なし	26,25,26	コンクリート ガラス等
	30-40				灰褐色 (5YR 5/2)					
40-50	III	埴壌土 (CL)	なし	灰褐色 (5YR 5/2)	半湿	多い	あり	30,26,24		
50-60				暗赤褐色 (5YR 3/3)						
60-100	IV	基岩 (R)	—	緑灰色 (10GY 6/1)	—	—	—	35,32,37	地山 還元色を呈する	
記入内容等		砂土(S), 砂礫土(SL), 礫土(L), 埴壌土(CL), 粘土(C)	団粒状, 単粒状, 塊状, カベ状	(土色調示)	乾, 半湿, 湿, 多湿, 過湿	なし, あり, 多い	なし, あり, 多い	(0.05式 土壌硬度計)		
[備考 (周辺の地形・地質・植生等)]										

診断

- ① 地盤が硬く、多くの根系が認められるのは表層のみである。
- ② 第三層に粘土の塊があり、土壤構造も壁状であることから透水性不良が懸念される。
- ③ 深さ1m以下の下層地盤は軟岩シルト層であり、下層地盤の排水性不良が懸念される。

写真は縦と横にスタッフを当てて撮影すること。

■ 土壌断面写真

--	--

(1) - ② 土壌断面調査(長谷川式大型検土杖)

地点番号	B-1		調査地点	公園 北側		
調査日	○年 ○月 ○日			調査者		
土柱図	深さ (cm)	層位	土性	土色	水分状況	その他
	0	I	埴壤土 (CL)	黒褐色 (5YR 3/4)	半湿	表層5cmに根系多い
	10					レキ・土丹あり
	20					25cm深に枯根あり
	30					
	40					
45	II	埴壤土 ～埴土 (CL～C)	暗赤褐色 (5YR 3/3)	半湿	レキあり	
50						
60						
70						
80						
83						
90						土壌が硬いため調査終了
100						
記入内容等			砂土(S), 砂壤土(SL), 壤土(L), 埴壤土(CL), 埴土(C)	(土色横参照)	乾, 半湿, 湿, 多湿, 過湿	

診断

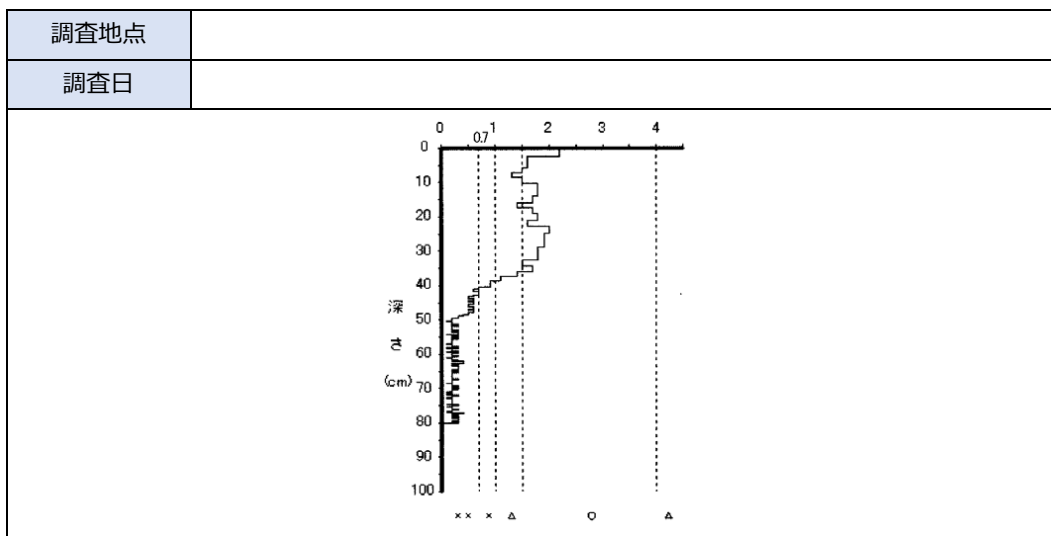
- ① 地盤が硬く、多くの根系が認められるのは表層のみである。
- ② 第三層に粘土の塊があり、土壌構造も壁状であることから透水性不良が懸念される。
- ③ 深さ1m以下の下層地盤は軟岩シルト層であり、下層地盤の排水性不良が懸念される。

写真は採取した土柱の深さが分かるようにスタッフを当てて撮影すること。

■ 土壌断面写真

--	--

(2) 土壌硬度試験



診断

S 値グラフにもとづき、植栽基盤としての問題点を記入する。

- ① 深さ 40cm までは、ほぼ S 値が 1.5cm/drop 以上あり軟らかであるが、50cm 以深では 0.5cm/drop 未満の固結層である。
- ② 当該調査地点は、高木植栽予定地であることから、改善対策を講ずる必要がある。

■ 土壌硬度の作業状況

--	--

(3) 現場透水試験

調査地点		調査日			
		天候	当日	前日	
再注水時	測定時刻 t 2		最終減水能 (mm/hr)		
	読み(mm) H2				
20 分後	測定時刻 t 3				
	読み(mm) H3				
40 分後	測定時刻 t 4		評価		
	読み(mm) H4				

診断

- ①最終減水能の整備目標である 30 mm/hr を大きく下回っており、極めて不良である。
- ②土壌硬度試験によって判明したと 40 cm 以深の固結層は、透水性も極めて悪く、高木植栽予定地については、抜本的な改善対策を講ずる必要がある。

■ 現場透水試験の作業状況

--	--

(4) 化学性に関する調査

土壌分析結果

調査地点			調査日			
土壌採取 層位 (cm)	分析項目					
		pH (H ₂ O)	EC (d S/m)	腐植含有量 (%)	全窒素 (%)	陽イオン交換容量(CEC) (cmol./kg)
	整備目標	4.5~7.5	0.1~1.0	3以上	0.1以上	優：20以上 良：6以上

診断
<p>① pHおよび陽イオン交換容量については問題がない。</p> <p>② EC、腐植含有量および全窒素は、整備目標値を大きく下回っている。これは、敷地造成によって表土が剥ぎ取られ、未熟な芯土が出てきたことによるものである。 腐植含有量を向上させるとともに、化成肥料を施すなどの対策が必要である。</p>

9. 診断結果のまとめ

対象地を記号又は名称をつけて記入する。

区域分けした理由を記述する。整備工法や仕様などによって分けを行うとよい。

(1) 整備方法の違いによる植栽計画地の区分

植栽地盤調査結果から、植栽地を以下の区域に分けて整備方法の検討を行うものとする。

区域の名称	区域の特徴
高木地	
低木地	
芝生地	
植樹	

■ 区域図

植栽平面図等にそれぞれの区域が判るように、着色もしくは模様などで区分する。

(2) 植栽基盤整備としての問題点

植栽基盤としての問題点について整理すると次のとおりである。

項目	区域の名称	植栽基盤としての問題点
有効土層に関する事項	高木地	
	低木地	
	芝生地	
	植樹	
物理性に関する事項	高木地	
	低木地	
	...	
化学性に関する事項	高木地	
	低木地	
	...	
その他		

本表は、一つの事例を示したものであり、整備工法の提案内容によっては、様式は見直すものとする。

10. 植栽基盤整備方法の提案

植栽基盤整備方法について、以下のとおり提案する。

具体的に記入する。

区域	整備面積 (㎡)	提案項目	整備目標	整備工法

■ 整備工法関連図面

暗渠排水など

参考

11. 整備工法の比較

整備工法の比較は、原則として発注者から求められた場合に作成する。

整備工法の決定にあたっての比較検討資料を下表に示す。

○：評価が高い △：評価は中程度 ×：評価が低い

提案項目	区域	改良方法	効果	施工性	経済性	工期	周辺への影響	総合評価	備考

注-1：各項目についての評価結果は記号などを用いて分かりやすく表記する。

注-2：総合評価では、改良方法の順位付けを明記するとともに、必要に応じて評価の裏付けとなった内容を書き添える。

12. 主要材料一覧表

主要材料一覧は、原則として発注者から求められた場合に作成する。

植栽基盤整備に使用する主要材料は次のとおりである。

名称	形状・寸法	数量	単位	備考（メーカー名等）

13. 概算工事費

概算工事費は、原則として発注者から求められた場合に作成する。

概算工事費については次のとおりである。

工種	形状・寸法	数量				原設計での工事費	増減額
		数量	単位	単価	金額		

注-1：詳細な見積もりや内訳書は別添とし、必要に応じて複数の工事費を参考資料として提示する。